

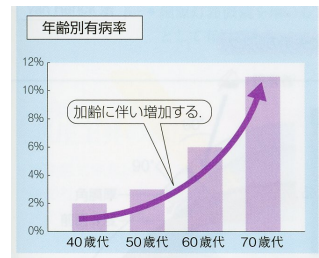
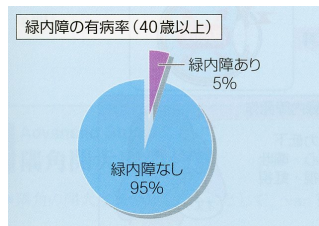
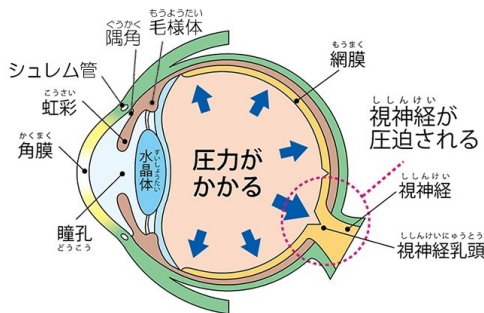
「緑内障」について

「緑内障」とは、何らかの原因で視神経が障害され視野（見える範囲）が狭くなる病気で、「眼圧」(*)の上昇がその病因の一つとされています。日本人の中途失明の最大の原因となります。

近年、大規模な疫学調査が行われ、加齢に伴い増加し、40歳以上の日本人の5%近くが「緑内障」に罹患していることがわかりました。これは日本では約400万人の方が「緑内障」ということになり、ありふれた病気といえます(図右)。

*「眼圧」とは？

まぶたの上から眼を軽く触ると風船のような弾力があります。これは眼の中に満たされている液体(「房水」)が一定の圧力を保ちながら、循環しているため、この「房水」による眼球内の圧力を「眼圧」といいます。(図下)



「緑内障」、「白内障」は、それぞれ違った呼び名として「あおそこひ」や「しろそこひ」という名称もあります。

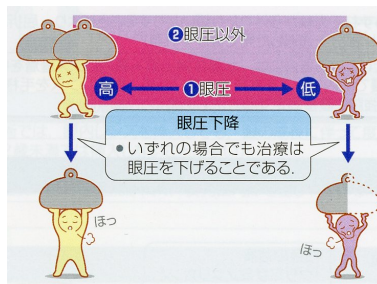
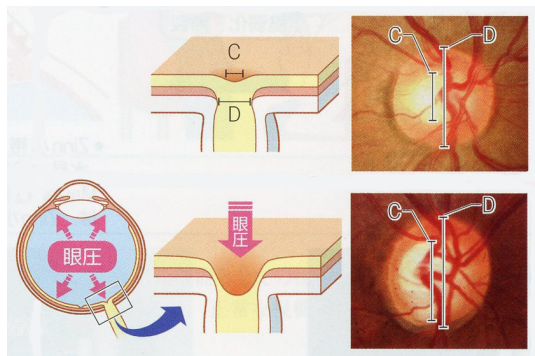
「白内障」は目の水晶体という部分が白く濁る病気です。目をのぞくと黒目の真中に「瞳孔」を通して水晶体を見ることができ、白く濁っていると病名の「白」と一致します。

それでは「緑内障」、「あおそこひ」での「緑」あるいは「青」は？ 諸説があるようですが、紀元前4～5世紀頃に古代ギリシャのヒポクラテスが「目が地中海の海の色のように青くなり、やがて失明状態になる。」と記述しているところに由来する説があります。これは突然眼圧が上昇したため角膜が少し腫れ、透明性は低下し白濁し始めている状態で、このときに外から目を見たときに、白濁した角膜を通して真黒な眼底を見ることになるため眼は青緑色に見えると考えられます。

図(左)：

「緑内障」では、視神経乳頭部で網膜神経節細胞の軸索である視神経が障害されます。

乳頭陥凹が拡大し、C/D比の増大などの眼底所見が認められます。



「緑内障」＝「眼圧が高い」わけではありません。

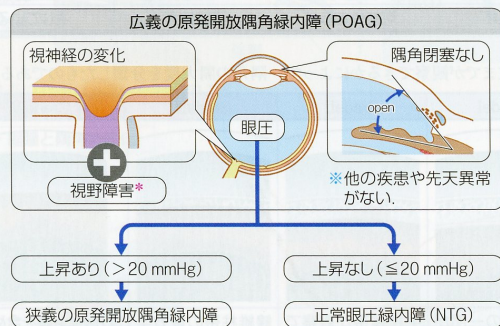
眼圧と眼圧以外の原因が関与していて、眼圧以外の原因(視神経の脆弱性など)が関与する割合が高ければ、眼圧が正常範囲でも「緑内障」が発症します。

(正常眼圧緑内障) (図右上)

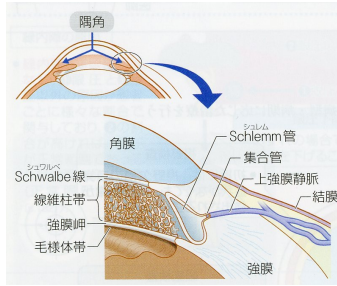
「原発開放隅角緑内障」(後述)の場合：

「緑内障」のうちで眼圧を上昇させる他の原因はなく、「隅角」に閉塞を認めないものです。眼圧の上昇により(狭義の)「原発開放隅角緑内障」と「正常眼圧緑内障」に分けられます。

眼圧が上昇する場合には、「隅角」は広いが(閉塞していないが)線維柱帯以降の流出障害により房水の流出抵抗が増大することによってされます。眼圧の他に様々な要因が加わるために視神経自身の障害(「緑内障性視神経症」)をきたす病型が存在します。(図右)

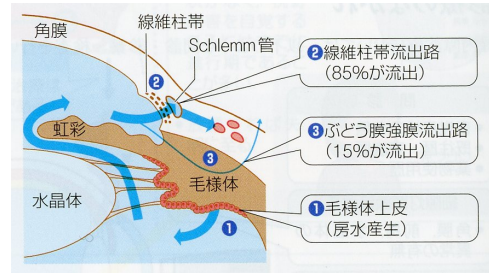


「隅角（ぐうかく）」（*）の構造と「房水」の流れ



「隅角」は「房水」の流出していく部位となっており、その所見は治療の選択に重要となります。すなわち「隅角」が広い、狭い（閉塞）かによります。一般的に「隅角」が狭いと（閉塞していると）「房水」の排泄が妨げられ眼圧は上昇します。

*「隅角」とは、角膜と虹彩の移行部位で、前房の隅でです。（図左）



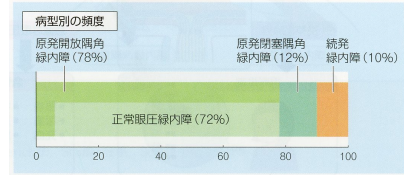
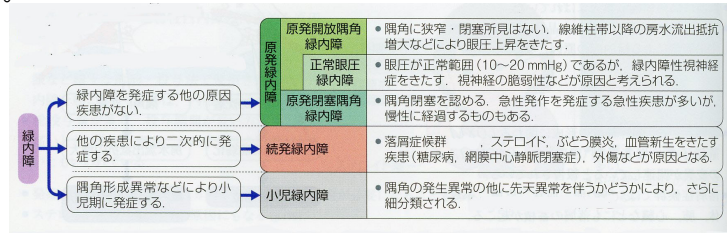
「房水」(*)は、毛様体上皮で産生され、眼房を灌流したのちに眼外や静脈系に流出していきます。

(図右)

*「房水」は、眼球を充たす体液のことです。眼圧を保つと共に角膜・水晶体の栄養補給の役目を果たします。

分類 原因と「隅角」所見により大別されます。(図右)

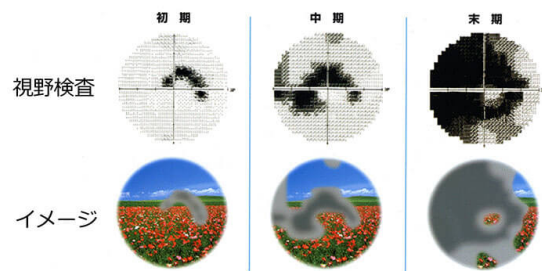
病型では、「原発開放隅角緑内障」(前述)が多く、その中では「正常眼圧緑内障」が大半(図右下)を占めます。



症状 「開放隅角緑内障」では、病気がかなり進行するまで自覚症状はほとんどありません。「眼圧」に関しては、「正常眼圧緑内障」が多いことに加え、20mmHgを少し超える程度の軽度の「眼圧」の上昇では、特に異常を自覚することがないからです。視野に関しては、初期から中期の視野障害は視野検査では検出されますが、患者さんが視野の欠けを自覚することはまれです(図右)。

一方で「閉塞隅角緑内障」では「眼圧」の急上昇による多彩な症状が現れ、視野障害が急激に進行する場合があります。

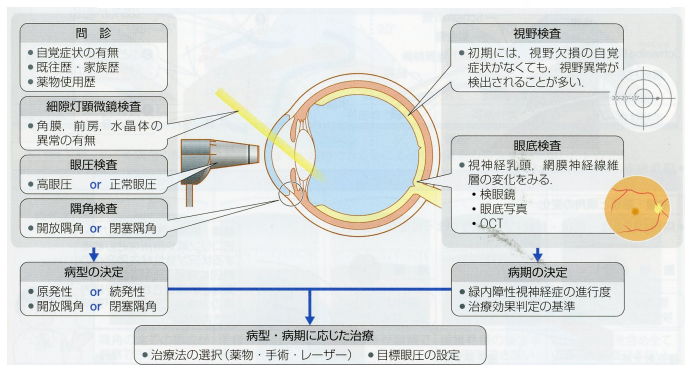
視野障害が進行するイメージ



診療のながれ:

図(右)の様な問診・診察・検査を行い、病型・病気に応じた治療が行われます。

- ・閉塞隅角緑内障: 「隅角」が閉じているために「房水」の流れが滞り、眼圧が高くなります。
- ・開放隅角緑内障: 「隅角」は開いているが、付近の網目状の組織が目詰まりを起こして房水が流れにくくなっているために眼圧が高くなります。
- ・正常眼圧緑内障: 「開放隅角緑内障」の一つ。「隅角」は開いていて眼圧も正常範囲内だが、視神経が障害されている。
- ・続発緑内障: 他の目の病気や全身の病気などに伴い眼圧が高くなります。



「眼圧が高くなってきた」「視神経乳頭の異常がさらに進んだ」「視野に異常が現れてきた」などの場合に治療が開始されます。

図は、「病気が見える vol.12 眼科」<MEDIC MEDIA>、「医療法人社団 慈成会 三枝眼科医院」・「医療法人 クラルス はんがい眼科」ホームページから引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。これからの参考にさせていただきます。

編集・発行: 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4 (御国通り2丁目)
電話: 0745-65-2631